平成 23 年度　事務事業事後評価調書（平成　22　年度事業）

整理番号	5 ― 26

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	敬老祝金支給事業					
評価者	担当課名		保健福祉課	担当係名		社会福祉係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	淡 路 至 尊		氏名	渡 部 憲 一
事業の概要	敬老の日を基準日とし、喜寿、米寿、白寿及び上寿に該当する高齢者に対し、長寿を祝福するとともに多年の労を労い、町民の敬老思想の高揚を図ることを目的として、敬老祝金の支給を実施している。					

全体計画 /単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度)		
事業費	国･道支出金	千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	10,290 千円
	事業費計	10,290 千円

実施方法	■ 直営	民間委託	その他 （　　）

第 5 期 総合計画（前期）	■ 登載事業	非登載事業	優先度	B

事業の位置付け		
政策目標	2	ぬくもり･雄武～保健･医療･福祉の充実～
基本施策	7	高齢者支援の充実
単位施策	3	社会参加の促進
事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務
その他計画･根拠等	雄武町敬老祝金支給条例、雄武町敬老祝金支給条例施行規則	

事業費 実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
国･道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
地方債	千円	千円	千円	千円	千円
その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
雄武町負担額（一般財源）	2,030 千円	1,870 千円	2,330 千円	2,570 千円	2,100 千円
合計	2,030 千円	1,870 千円	2,330 千円	2,570 千円	2,100 千円

2　事務事業の目的･内容（Plan･Do）

【誰、何が（対象）】	高齢者	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	高齢者が健康で生きがいのある生活が送れるよう、各種高齢者福祉サービスの充実など総合的な支援が求められてきている。	支給対象人数		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	多年の労を労い、祝金を支給し、町民の敬老思想の高揚に繋げていく。	① 支給実績	目標年度	22年度
			目標値	94 名
			実績値	94 名
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	長寿への励みになるとともに家族や地域住民の敬老精神の高揚を図る。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
①敬老祝金の支給	支給台帳を作成し、敬老の日を基準日として、喜寿、米寿、白寿、上寿に該当する方へ祝金を支給する。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	敬老の節目を迎える高齢者に対し、長寿を祝福することは、多年の労に対する敬老思想の高揚を図るため欠かせないもので、それを維持することは必要である。当該事業を実施しない場合、敬老思想が薄れ、高齢者の健康増進に努める意欲が低下し、地域における見守りなどの繋がりを希薄にするおそれがある。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	高齢者自らが健康増進に努める意欲の向上及び各地区敬老会の開催など町民の敬老思想の高揚が図られた。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	敬老祝金は雄武町敬老祝金支給条例及び雄武町敬老祝金支給条例施行規則に基づいて、限られた範囲内で実施している。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	必要条件を具備し、基準日において、該当年齢に到達する方全員に支給するものであり、公平と考える。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
長寿を祝福することは、高齢者支援充実の観点からも必要不可欠であり、高齢者福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当である。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
健康増進及び敬老思想の高揚を図るために町の支援は必要であり、高齢者福祉の向上のため、継続して行う必要があることから、現状維持が適当である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）